

文化経済学

第8巻第1号 (通算第30号)

2011年3月

招待論文—政策の現場から、20周年を迎える文化経済学会〈日本〉へ

- 文化経済学への期待 近藤 誠一 (1)
 クリエイティブ産業振興の考え方について 高木 美香 (5)

論文

- 東京都におけるクリエイティブ産業の集積
 — 理論と政策へのインプリケーション — 後藤 和子・奥山 雅之 (9)
 創造的人材とわが国ものづくり産業の成長基盤 — 統計的試論 — 本田 洋一 (21)
 ビジュアルアートを活用した地域活性化のプロセスモデル 青木 恵之祐 (35)

研究ノート

- 現代アートと地域再生
 — サイト・スペシフィックな芸術活動による地域の変容 — 野田 邦弘 (47)
 「社会的な議論」の様相をめぐる理論的考察
 — 「制度」としての美術館の公共性 — 原嶋 千榛 (57)
 観光集客型ミュージアムとローカル・コミュニティ
 — 直島の事例からみたその可能性と課題 — 西 孝 (67)

調査資料

- 地域福祉施設と大学のコラボレーションを通じたアートプロジェクトの企画運営と評価
 — えびすアートプロジェクトを事例に — 谷口 文保 (79)

書評

- David Throsby, *The Economics of Cultural Policy*, Cambridge University Press, 2010.
 中谷 武雄 (91)
 増淵敏之著『物語を旅するひとびと—コンテンツ・ツーリズムとは何か』
 彩流社, 2010年 井口 貢 (93)
 ジョージ・P・ランドウ著『ラスキン—眼差しの哲学者』
 横山千晶訳, 日本経済評論社, 2010年 美山 良夫 (97)
 V. A. Ginsburgh and D. Throsby eds. *Handbook of the Economics of Art and Culture*,
 Part 8 Labor Market 八木 匡 (99)

地域・国際レポート

- 世界に帰還する芸術文化
 — 地域で開催される国際芸術祭の意義と可能性 — 加藤 種男 (103)
 「あいちトリエンナーレ 2010」の実施とその成果検証 (中間とりまとめ) について 大野 明彦 (109)
 事業報告 文化経済学会〈日本〉秋の講演会
 「日本から世界へ—海外に広まる日本の食文化」 江口 潜・澤村 明 (113)